

# 種粃5キロを蒔き、育苗がスタート

## 広町田んぼの会

季節外れの寒気が去り、春たけなわを思わせた4月18日(土)、うるち米4キロ、もち米1キロの種粃を蒔きました。どちらも昨秋の収穫から、取り分けて保存した粃です。



長さ60センチの育苗箱に、専用の培土2キロを入れて均し、種粃をざっと100グラムずつ蒔いて、その上にさらに、培土1キロをかぶせます。

もち米を10箱、うるち米を35箱に蒔き、田んぼに4列に並べました。その上に金属製のアーチ枠を数本ずつ立て、ビニール布で覆って、トンネル型のビニールハウスにしました。最後



に、田んぼに水をひたひたに張りました。

ビニール布は朝の冷え込みが15度以下になる5月中旬まで、覆い続けます。その間、苗当番が毎日2回、交代で見回り、晴れた日はハウス内が高温になりすぎないように、布をはいで空気を通します。併せて、田んぼの給水量を調節して、水位を維持します。

種粃は数日後に発芽し、田植えを予定する6月中旬には15センチ前後に育ちます。

種蒔きの最中、田んぼの周辺からシュレーゲルアオガエルのオスが、メスを呼ぶ声が響き続けました。彼らの産卵期が始まっています。

